



番外編

マダニに警戒!

人もペットも感染症対策を

執筆者・岡谷動物病院 佐々木厚さん

寄稿

マダニから人・犬・猫・家畜動物・野生動物、更には、犬から人、猫から人へと感染する重症熱性血小板減少症候群(SFTS)に対する厚生労働省からの勧告が出ました。本紙週刊「見る」で3月まで連載を担当していた獣医師の佐々木厚さんから寄稿がありましたので、紹介します。

はじめに

SFTSは、2011

1年に中国で初めて報告されその後韓国と日本で存在が確認された新しい感染症です。潜伏期間は5〜10日間で、症状は発熱・消化器症状・頭痛・筋肉痛であり、進行していく

と意識障害などの神経症状、歯肉出血や下血群(DIC)や多臓器不全を起し死亡してしまいます。

死亡率は、8〜10%と高く、現在の医療では治療法もワクチンも予防薬もありません。

SFTS ウイルスの現状

初めは、このウイル

また、現在の医療や獣医療では根本的治療法がなく、ワクチンも予防する薬もありません。死亡率はヒトで8〜10%と高く、高齢者ほど上がる傾向があります。現在、犬と猫が感染・発症・死亡、ヒ

厚労省からの注意喚起

致死率8〜10%のウイルスを保有した伴侶動物や、野良犬・野良猫が来院することを常に意識することを、動物病院に喚起しています。獣医師・飼い主・

マダニがいそうな場所には、夏でも長袖長ズボンで行くようにして、万が一刺されたら動物も人間も絶対に触らずに人間の病院・動物病院に行つて、特別の器具で除去してもらってください。そして医師と獣医師にSFT

マダニがいそうな場所には、夏でも長袖長ズボンで行くようにして、万が一刺されたら動物も人間も絶対に触らずに人間の病院・動物病院に行つて、特別の器具で除去してもらってください。そして医師と獣医師にSFT

飼い主と同居猫や犬を守るため、必ず入院させ上記の検査を素早く行い、SFTSを疑ったら検査センターに速やかに検体を送るよう勧告が出されています。

飼い主の責任が鍵

これからは、犬の飼い主は100%、フィラリア予防マダニ予防十大伝染病予防ワクチンを徹底し、猫の飼い主は室内飼いを徹底させ、フィラリア予防マダニ予防十猫伝染病ワクチン予防を完璧に行う必要と義務が

ある時代になってきました。4月上旬からマダニを付けた犬さん猫さんが多数来院しています。これはマダニの発生が早い4月から8月まで投与してください。猫には背中

ノミ寄生虫をオールインワンで予防できる新製品が出ていますし、犬には1年じゅう効果が持続するフィラリア注射や3か月ごとでいいマダニ駆除剤も出ていますので、豊富なラインナップから選

以上、緊急の情報をお知らせしました。もうマダニ対策を始めてください。そして、フ

イラリア投薬は5月末〜6月からスタートし、最終投与は蚊がいなくなつてから1か月

スタッフを守るために、そしてここが非常に重要ですが、西日本だけでなく全国の犬・猫にマダニ駆除剤を投与することを強く勧告しています。全ての犬と少しでも庭に出る猫には必ず動物病院で処方した「マダニ駆除剤」を投与するようにしてください。市販のタイプは効果がありません。そして、マダニがいそうな場所には人間も動物も近づかないこと、猫は室内飼いを徹底することを強くお勧めします。

ちなみに動物の診断ガイドラインは、①白血球減少症(5000/μl以下) ③血小板減少症(100000/μl以下) ④食欲不振・嘔吐下痢 ⑤入院点滴を要するほどの重症 ⑥パルポウイルス・その他のマダニ媒介性疾患の否定⑦DICの検査・診断です。

後の8月下旬まで続けてください。これを理解しないと感染のリスクがあります。人間にも動物にも楽しい気持ちのいい季節がやってきました!正しい知識を見極め実践することで、大切な家族である犬猫たちと自分自身を守ってください。その助けになればうれしいです。